

# 大分県内製造業における労働安全 衛生マネジメントシステム構築状況と 有機溶剤作業にかかるリスク評価 のためのモデル作成

## 大分産業保健推進センター

所長 三角順一

相談員 青野裕士

相談員 田吹光司郎

相談員 青木一雄

# 調査研究の目的

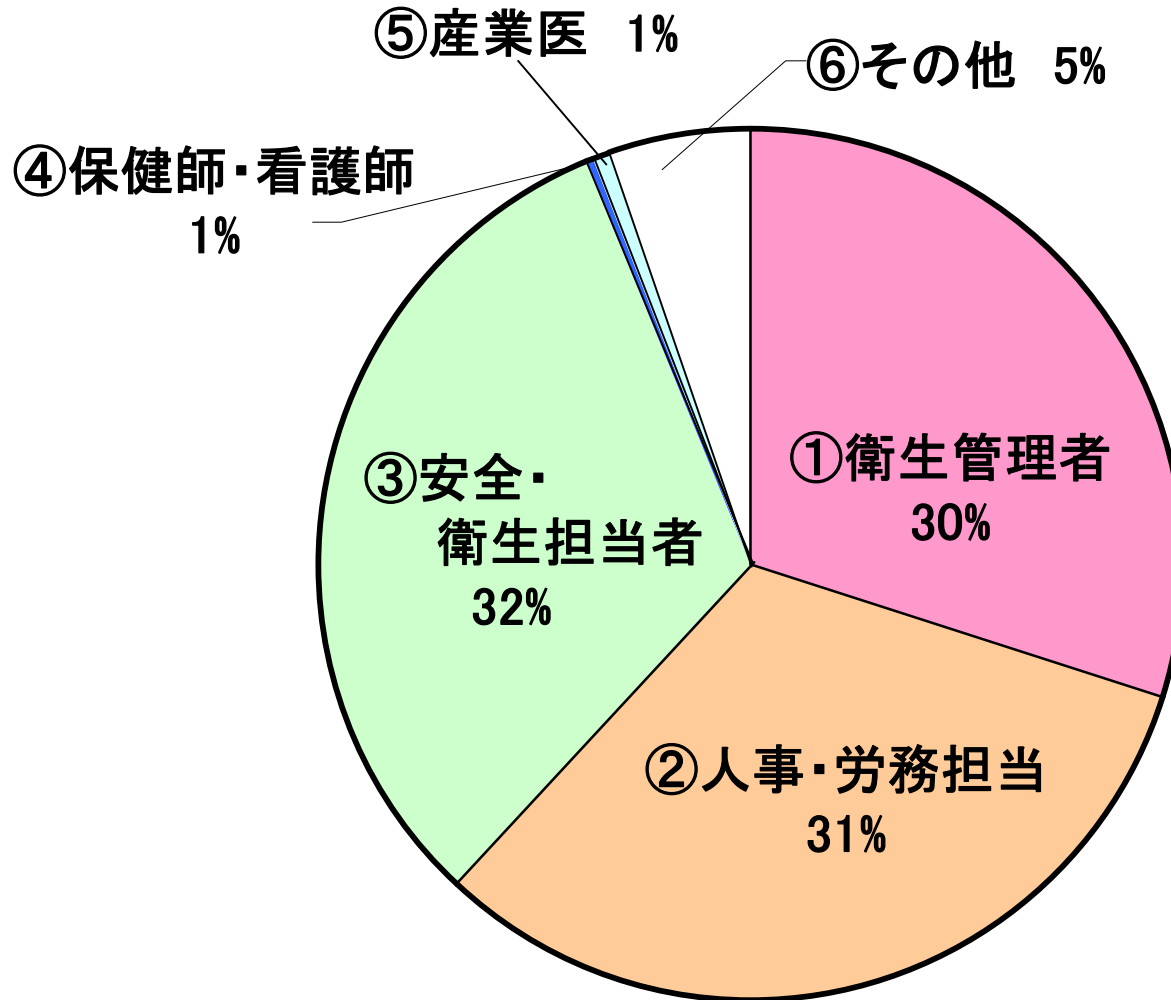
1. 労働安全衛生マネジメントシステムの構築への機運が加速している中で、大分県内の製造業での取り組み状況をアンケート調査で把握する
2. 有機溶剤取扱作業事例の作業分析とリスクアセスメントのモデルを示す

# 対象の事業所

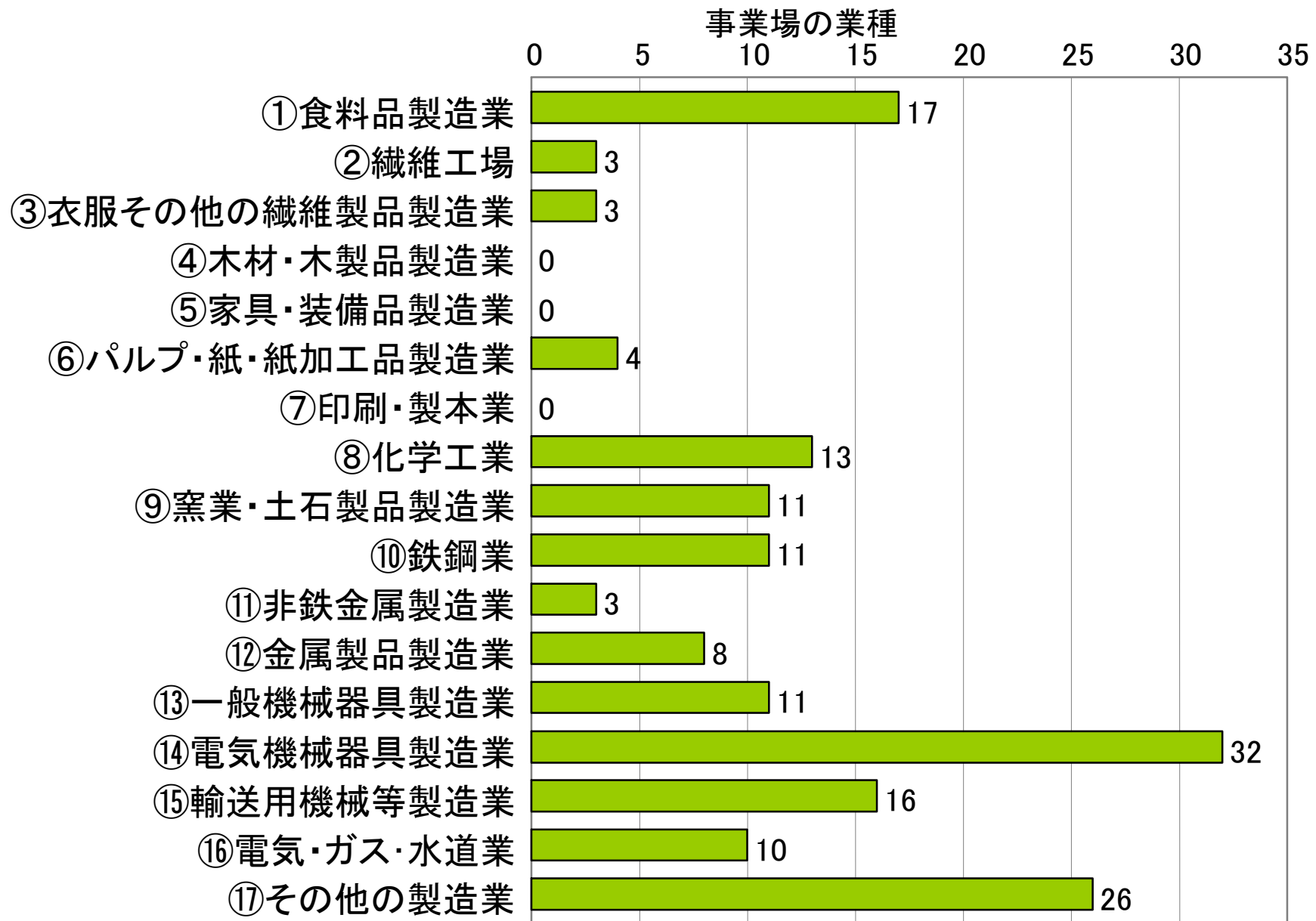
大分県内製造業の173事業所からアンケートの回答が寄せられた(回収率58.4%)。

その内、有機溶剤作業や特定化学物質を取り扱う事業所は、79事業所であった。

# 記載者の職種

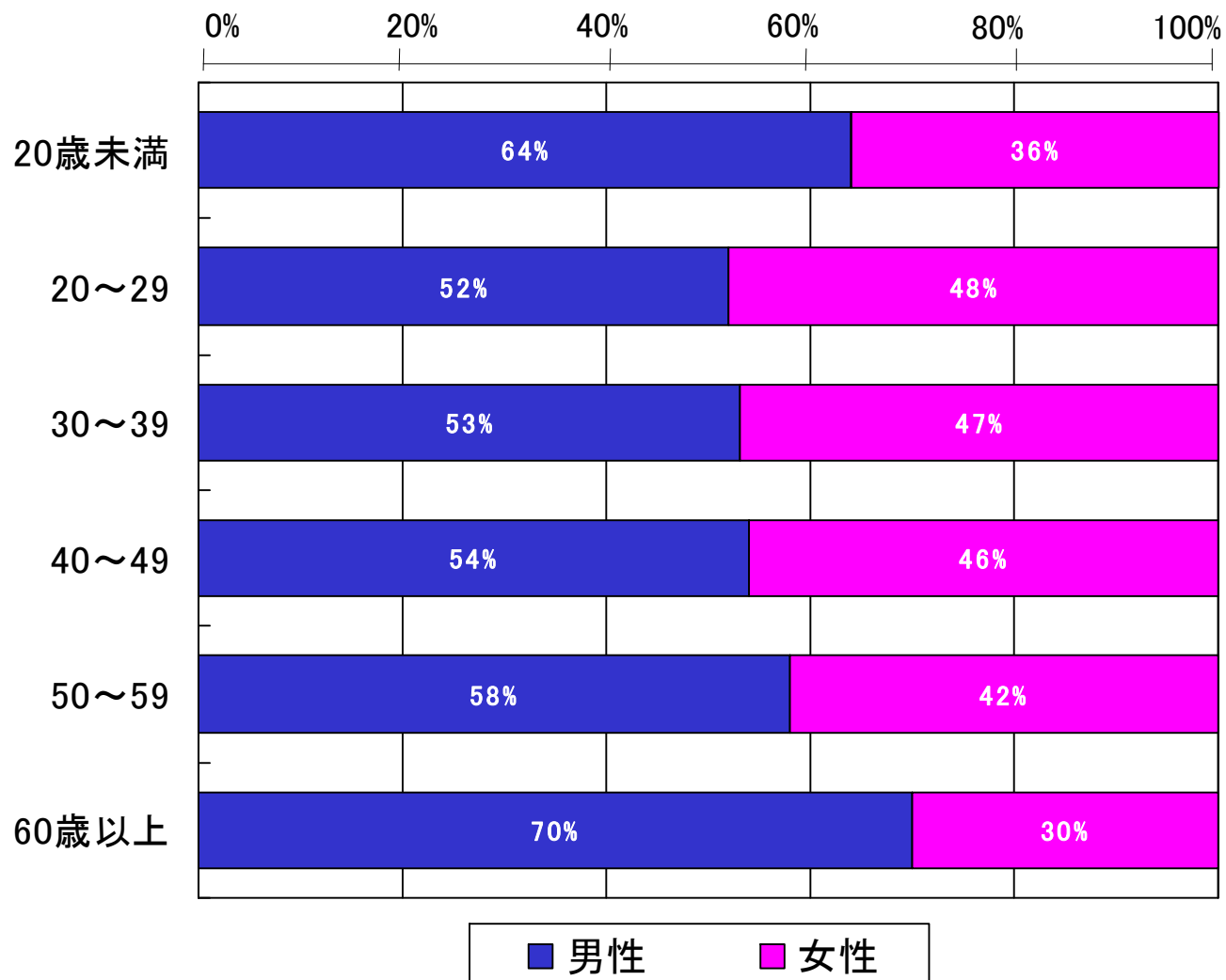


# アンケート回答事業所の業種分類



# 年齢別従業者男女構成

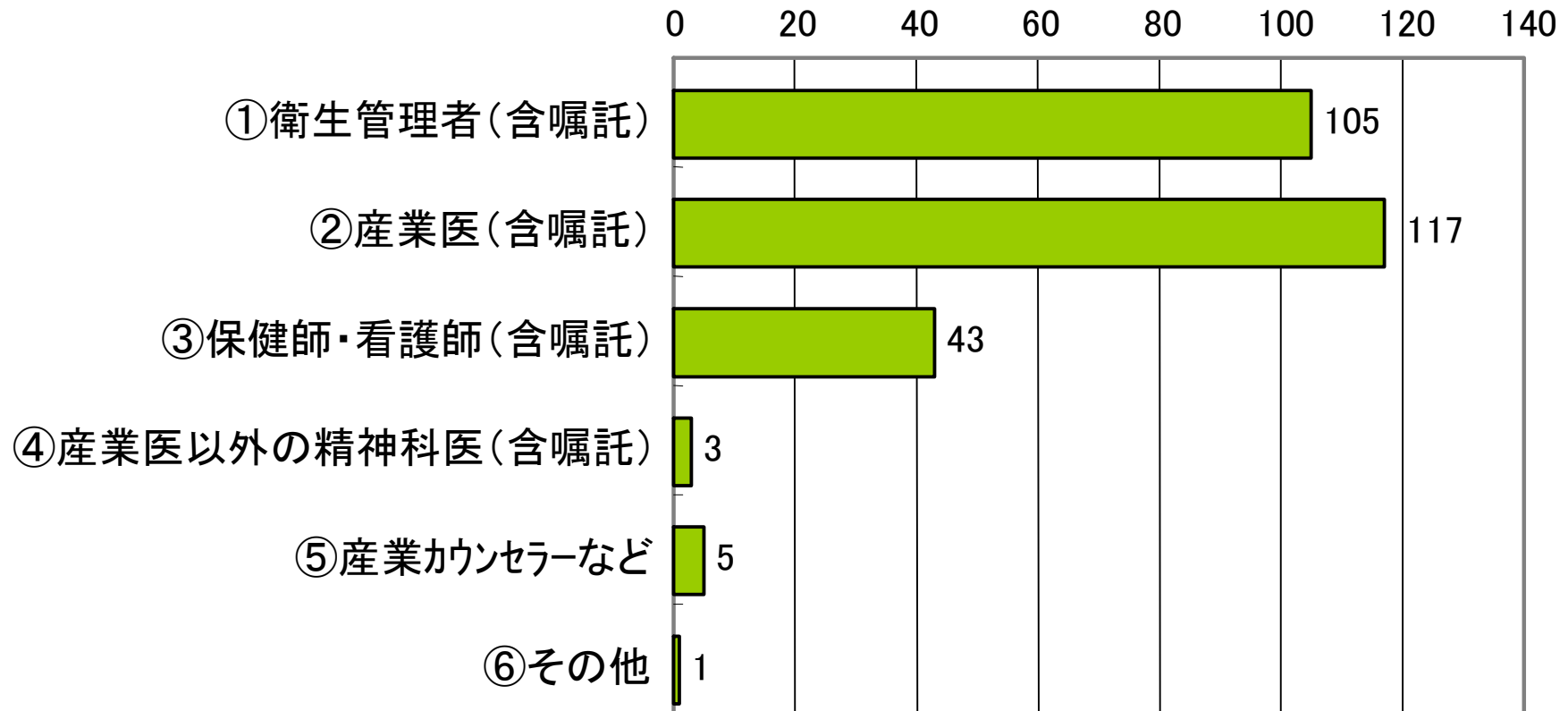
男子が23,895人  
女子が 7,366人



# 従業者の平均年齢

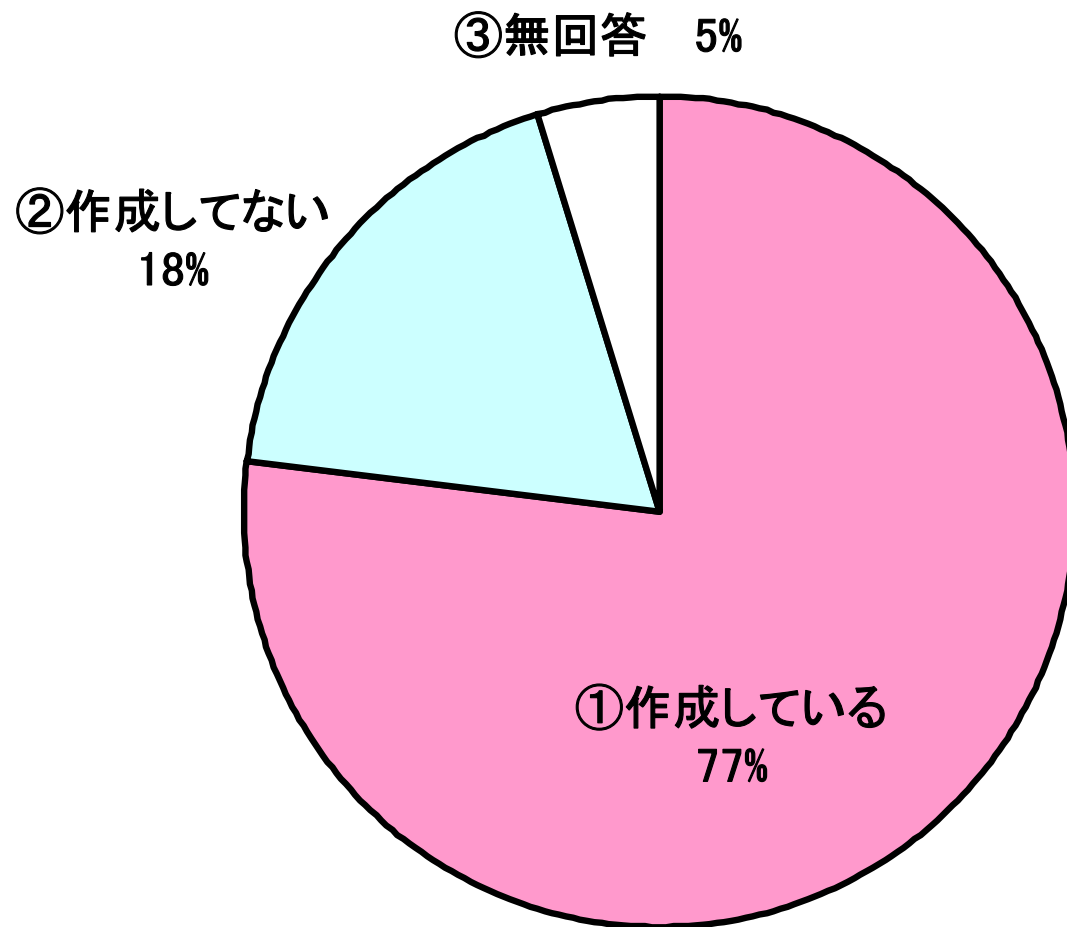
全社員の平均年齢は40歳

# 産業スタッフの職種

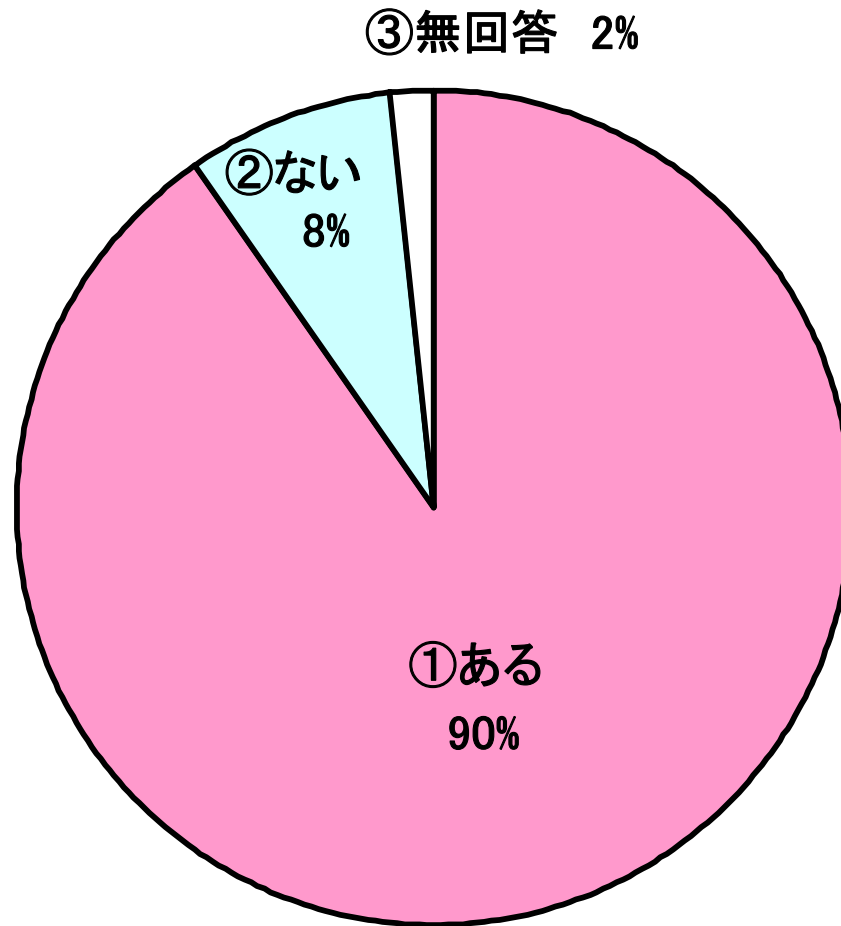




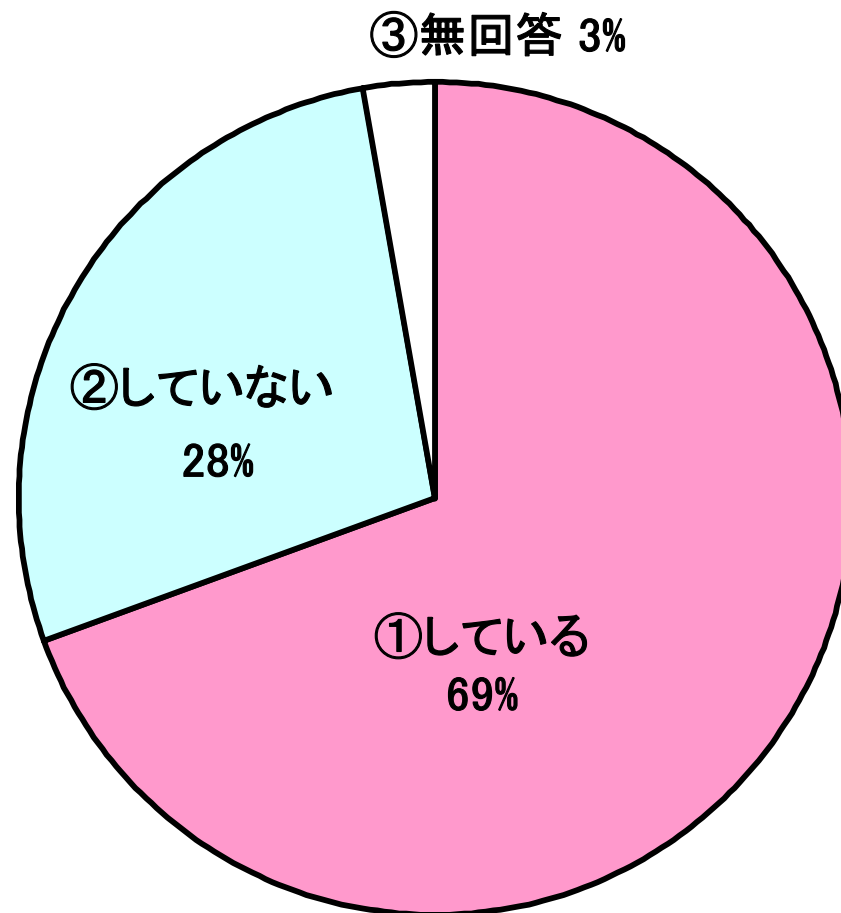
# 労働者の安全と健康の確保のための計画



# 安全衛生委員会

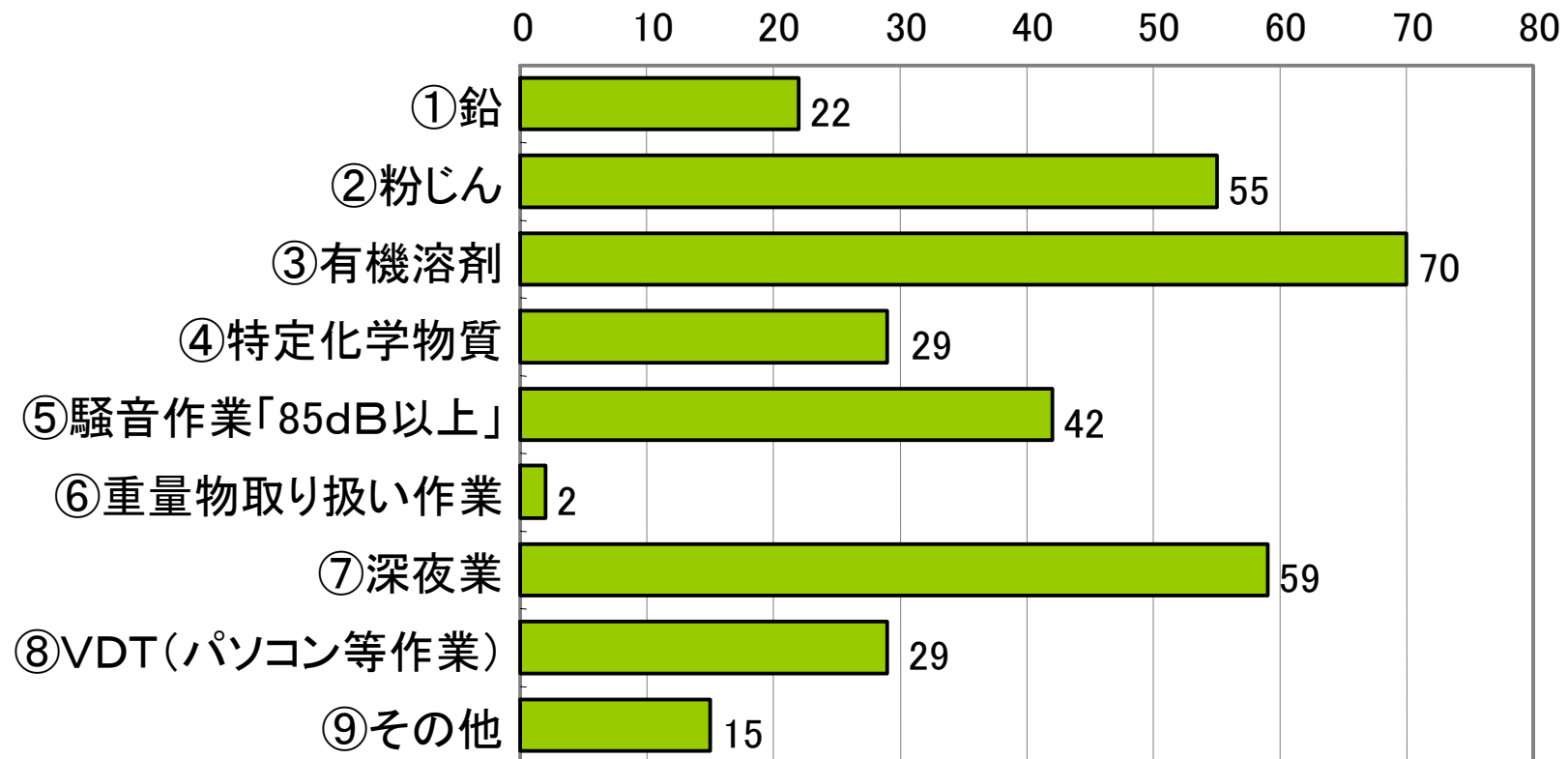


# 産業医の職場巡視

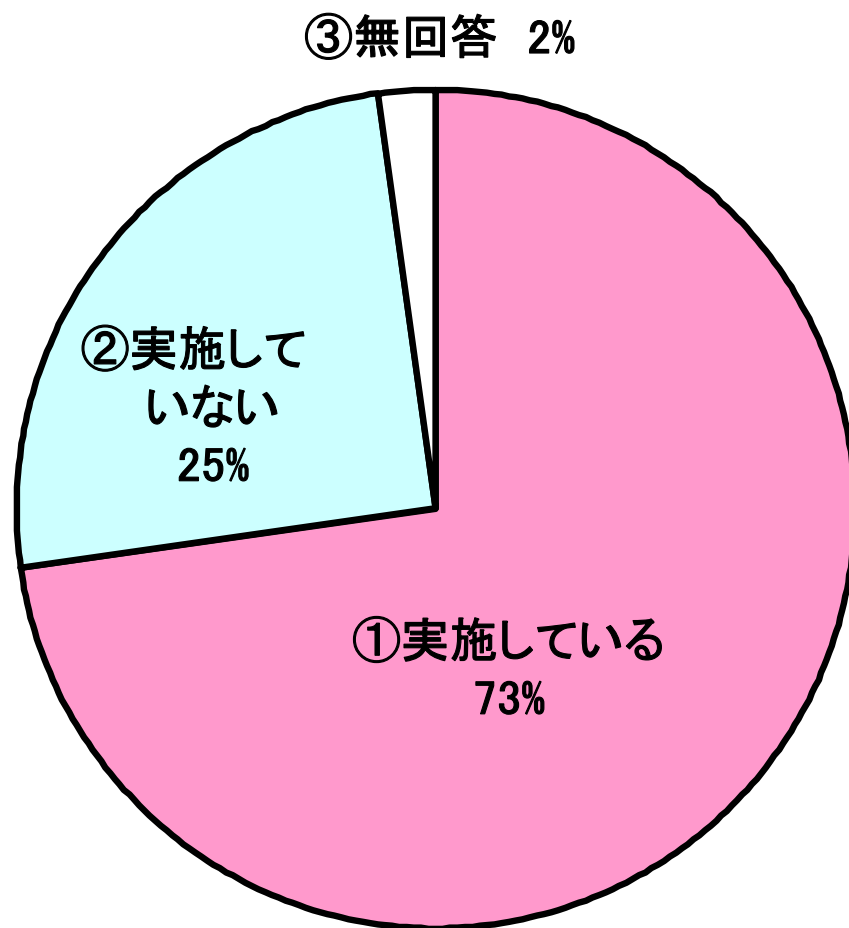


# 労働衛生管理体制

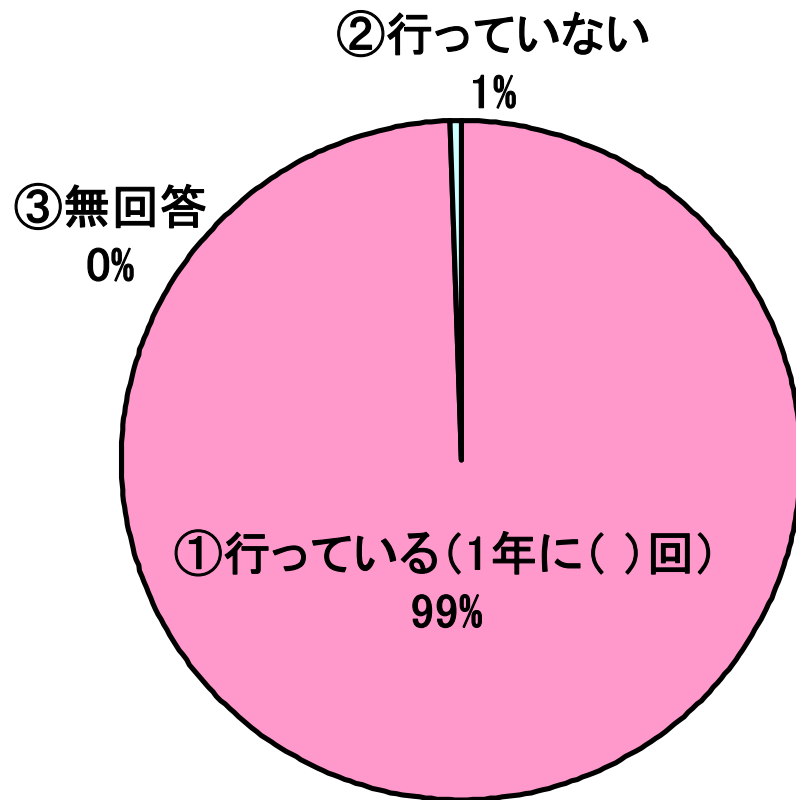
## 有害業務にかかる特殊健診の内容



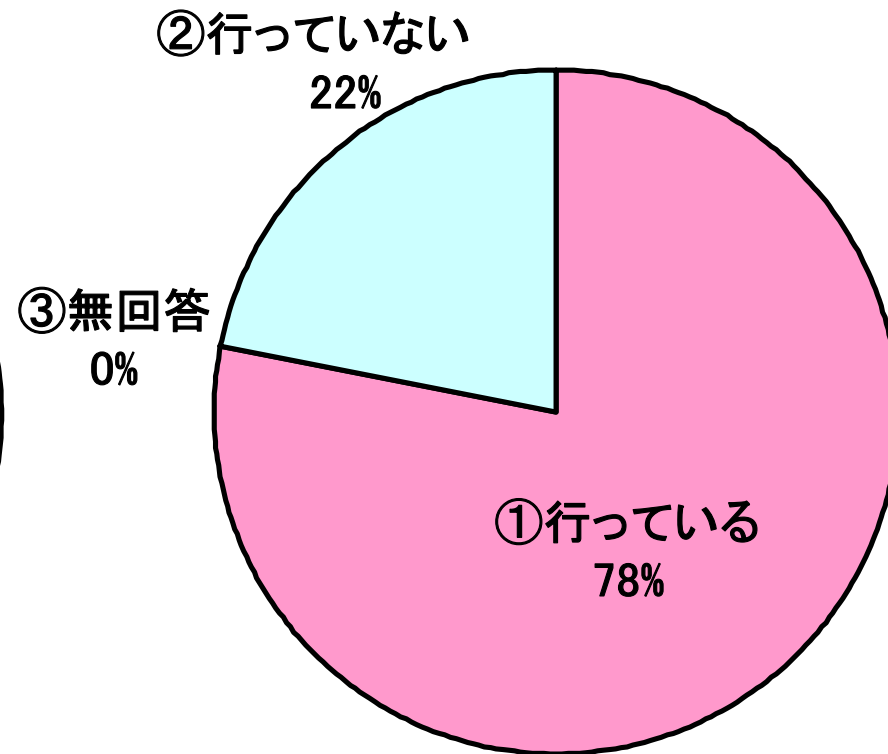
# 作業環境測定の実施状況



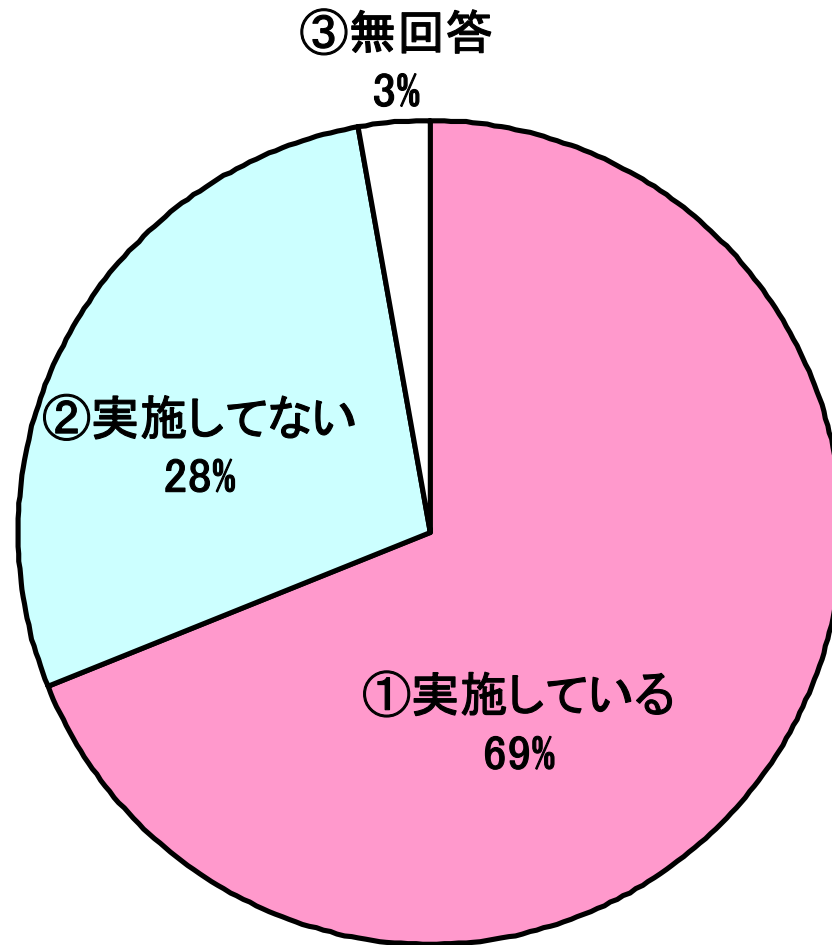
## 定期健康診断の取り組み



## 有害業務にかかると 特殊健診の取り組み



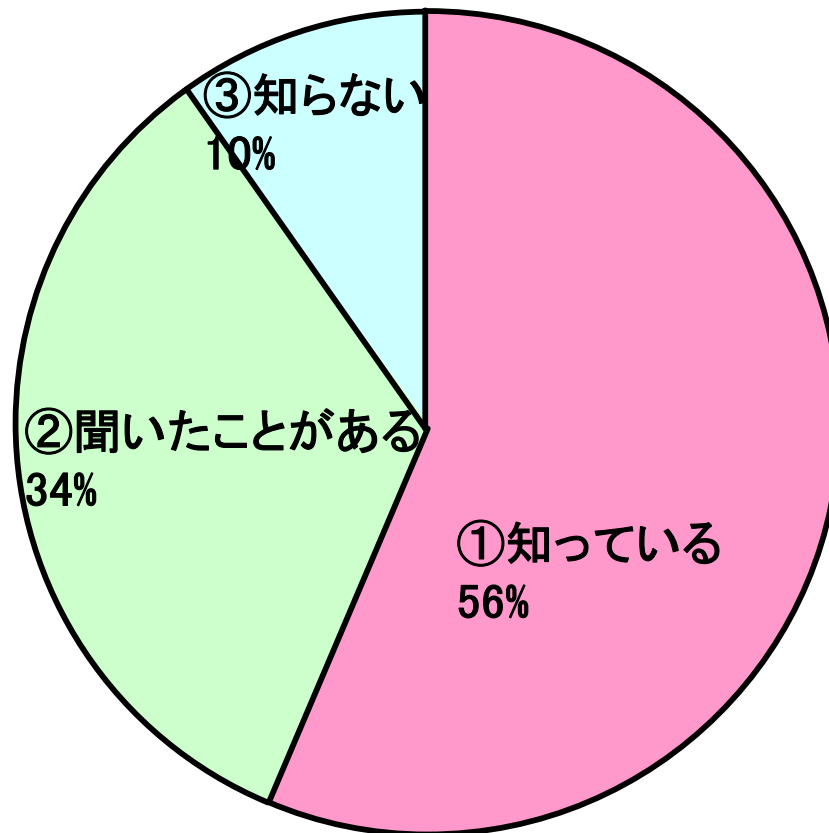
# 衛生教育の実施状況



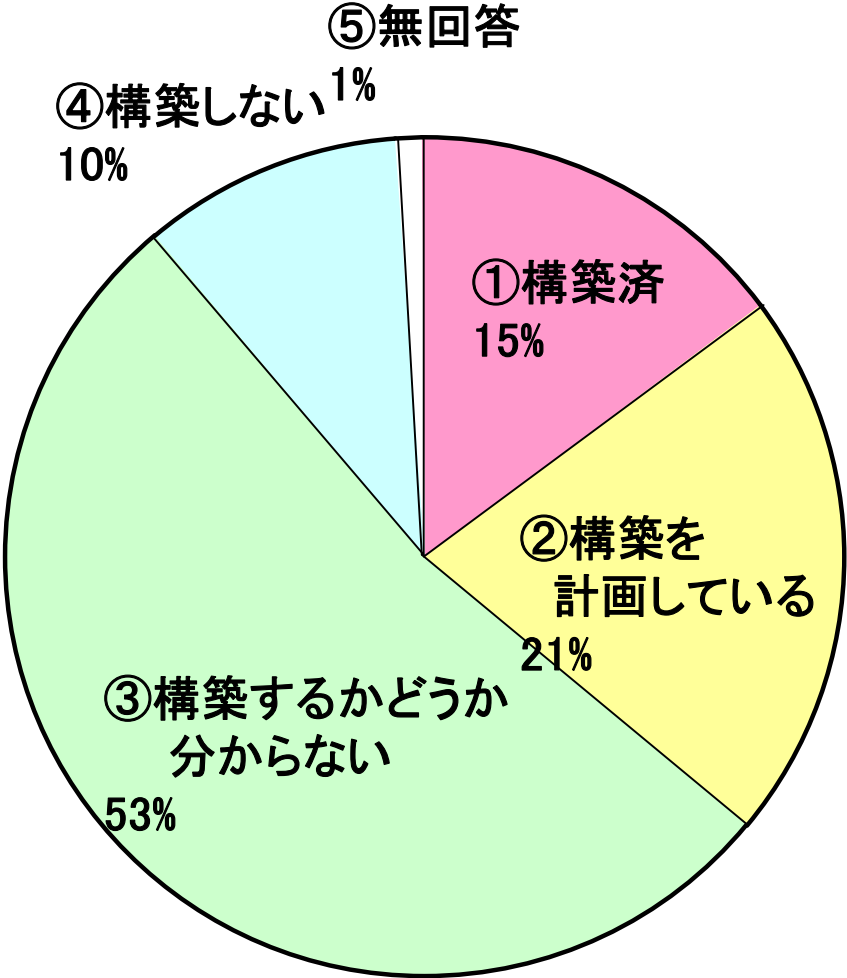


# 労働安全衛生マネジメント システムの取り組みの 状況

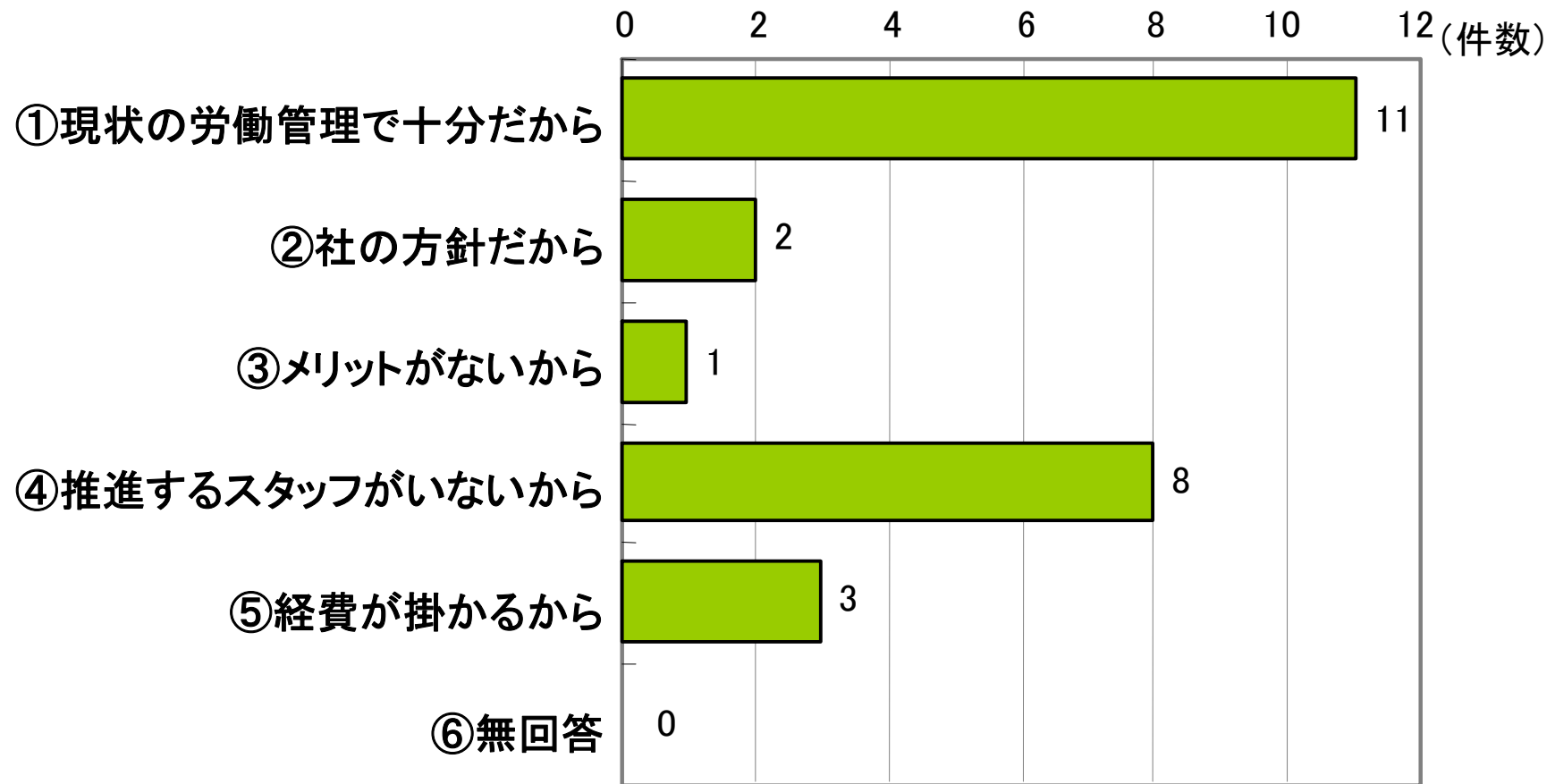
# 「労働安全衛生マネジメントに関する指針」の認知度



# 労働安全衛生マネジメントシステムの構築状況

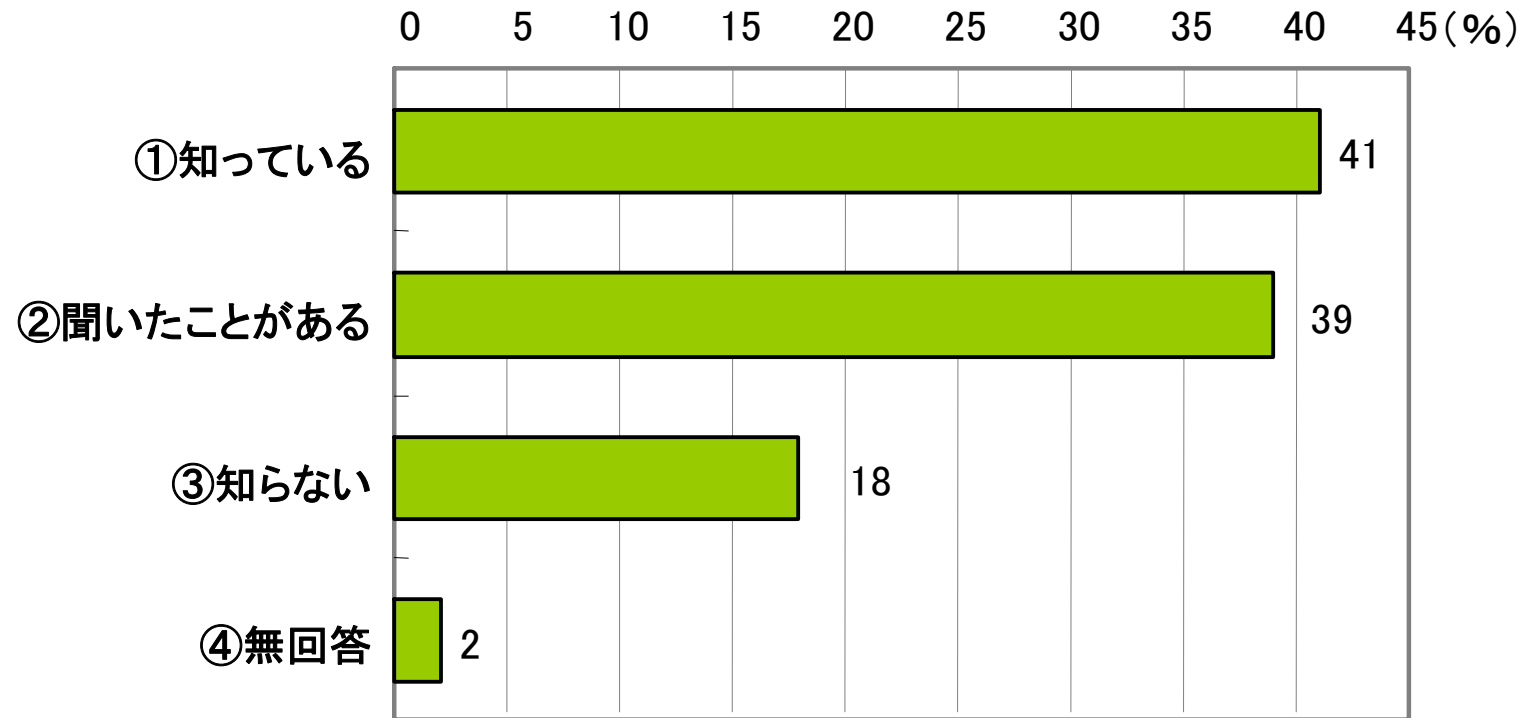


# 労働安全衛生マネジメントシステムを構築しない理由 (n=25)

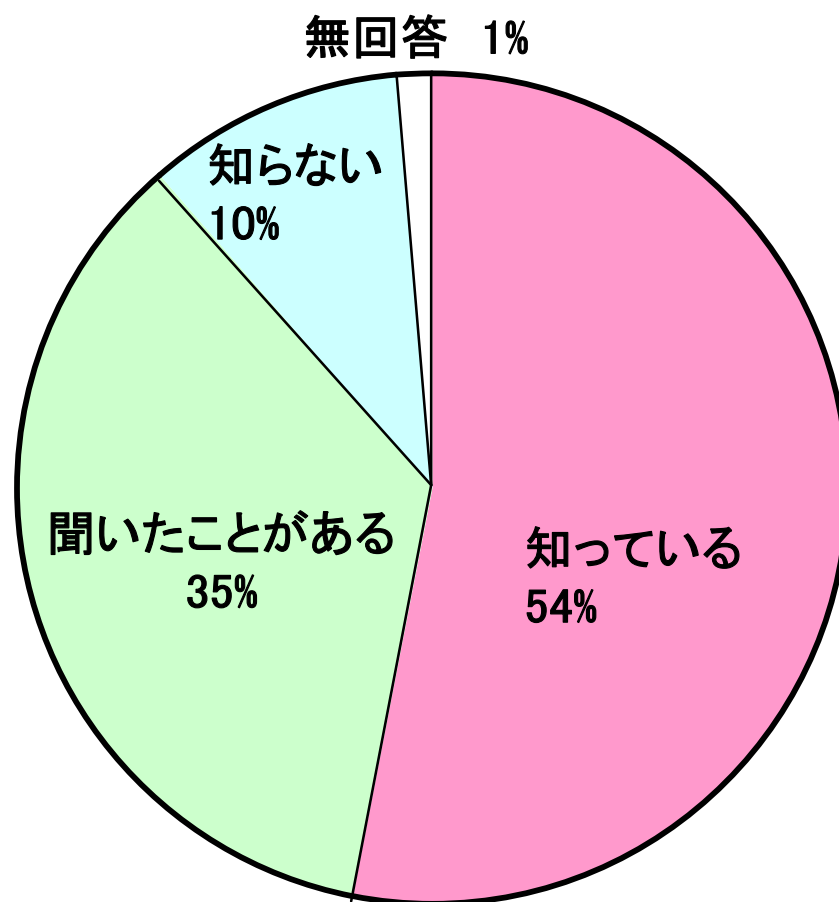


# 「化学物質管理指針」の認知

(n=173)

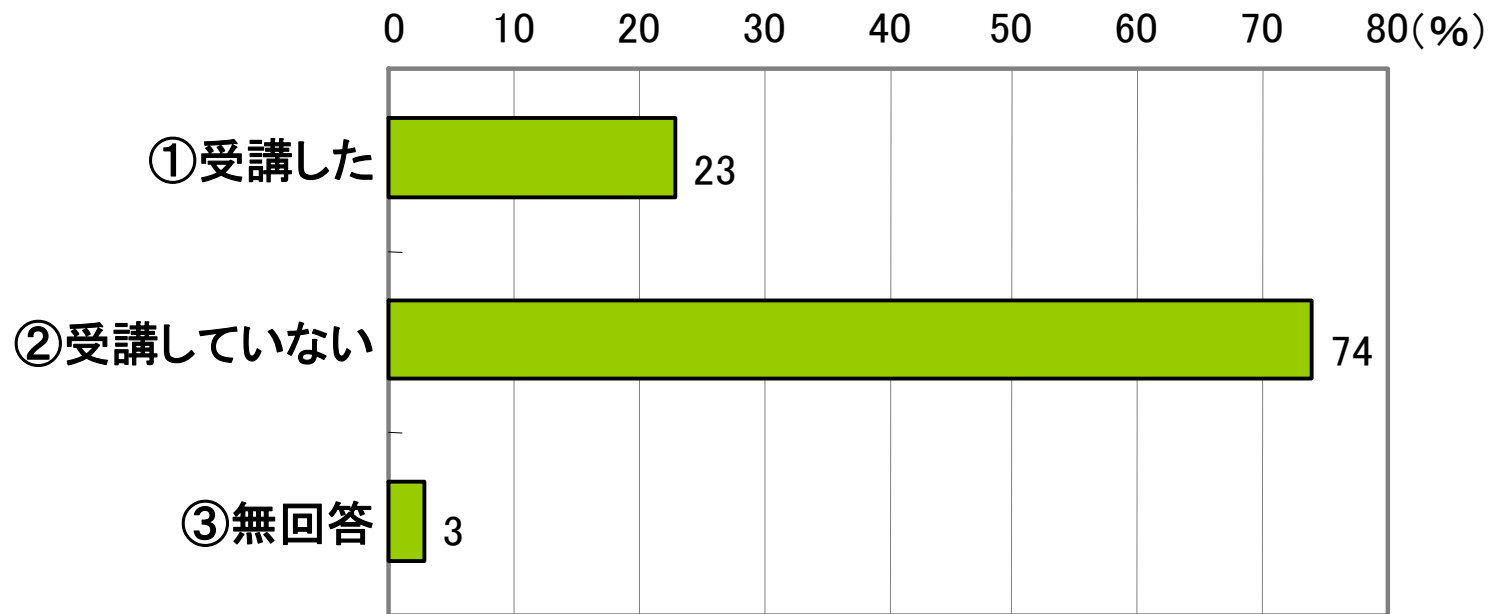


## 化学物質管理指針の認知度 (n=79)

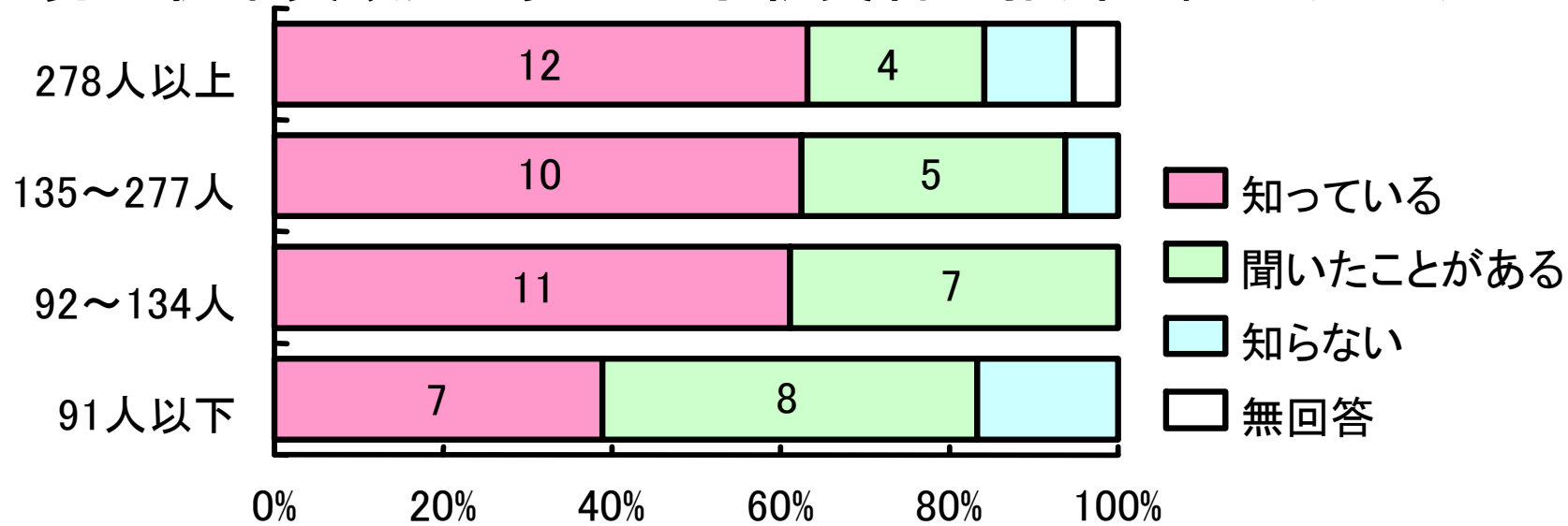


# 化学物質管理者研修の受講状況

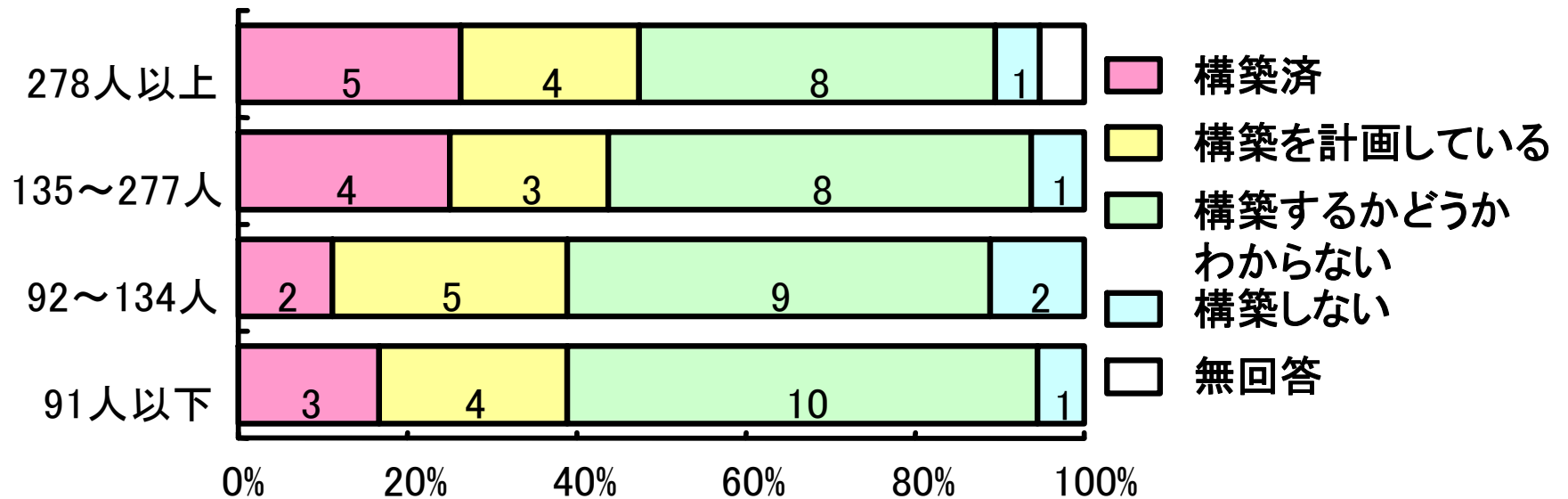
(n=173)



## 男子従業員数別に見た化学物質管理指針の認知(n=71)

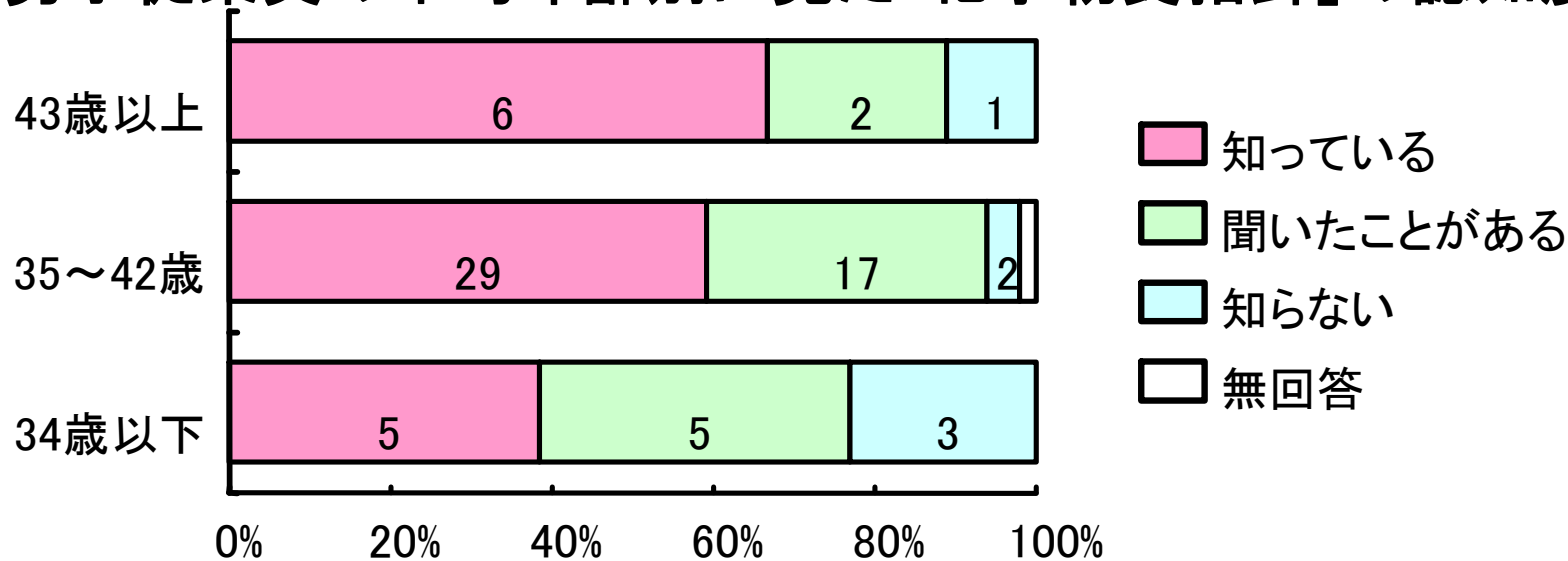


## 化学物質管理指針に基づくマネジメントシステムの構築状況(n=71)

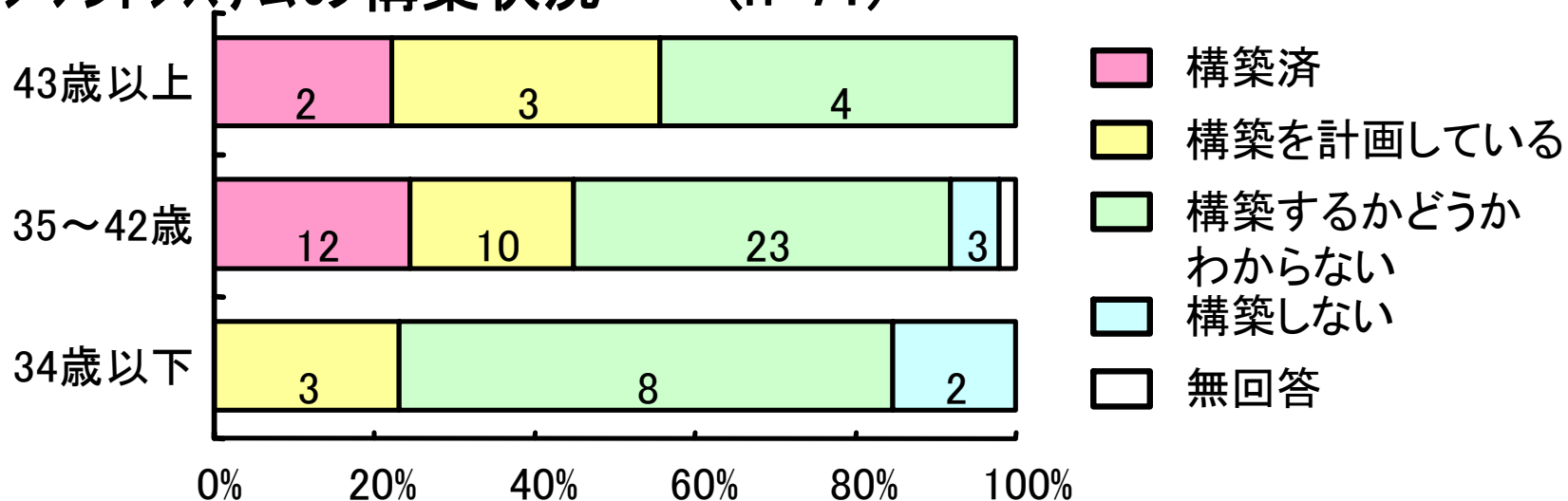




## 男子従業員の平均年齢別に見た「化学物質指針」の認知度(n=71)

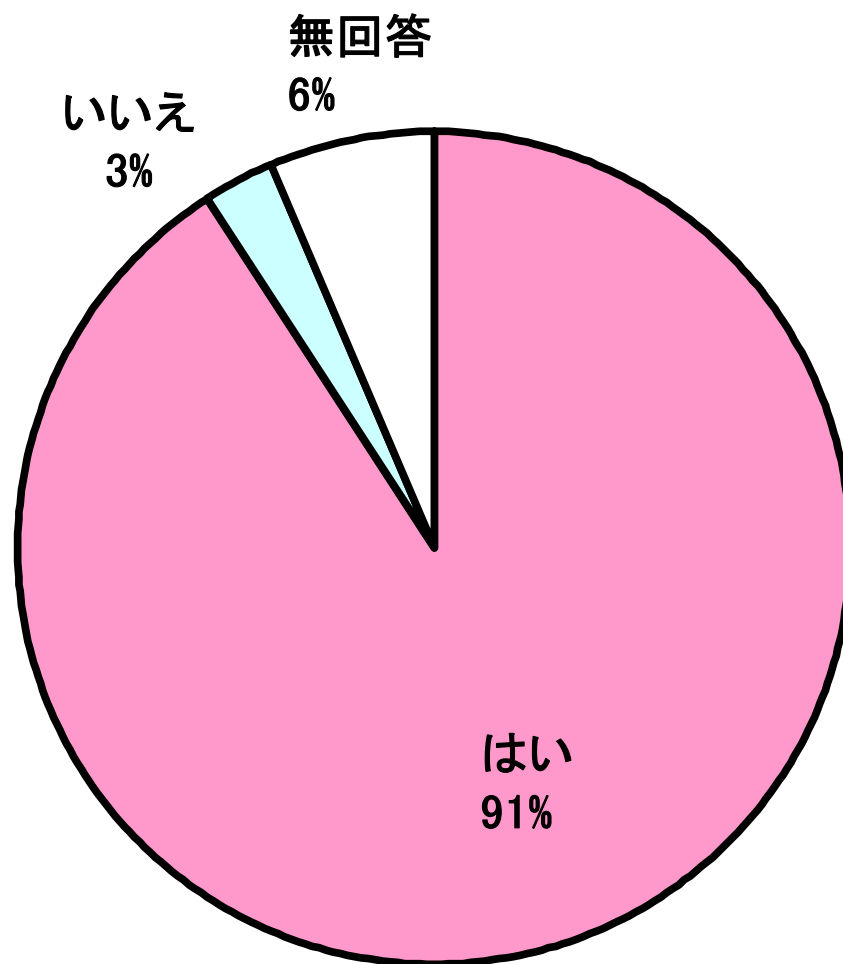


## 男子従業員の平均年齢別に見た化学物質管理指針に基づく マネジメントシステムの構築状況 (n=71)

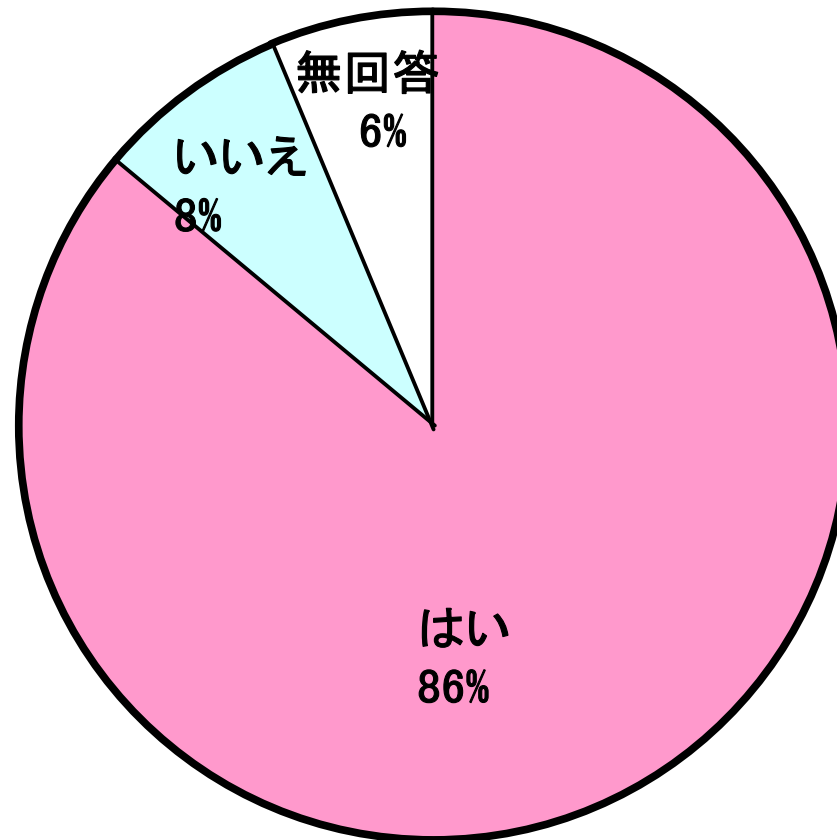


# 労働安全衛生マネジメント システムの基本的な枠組み への考え方

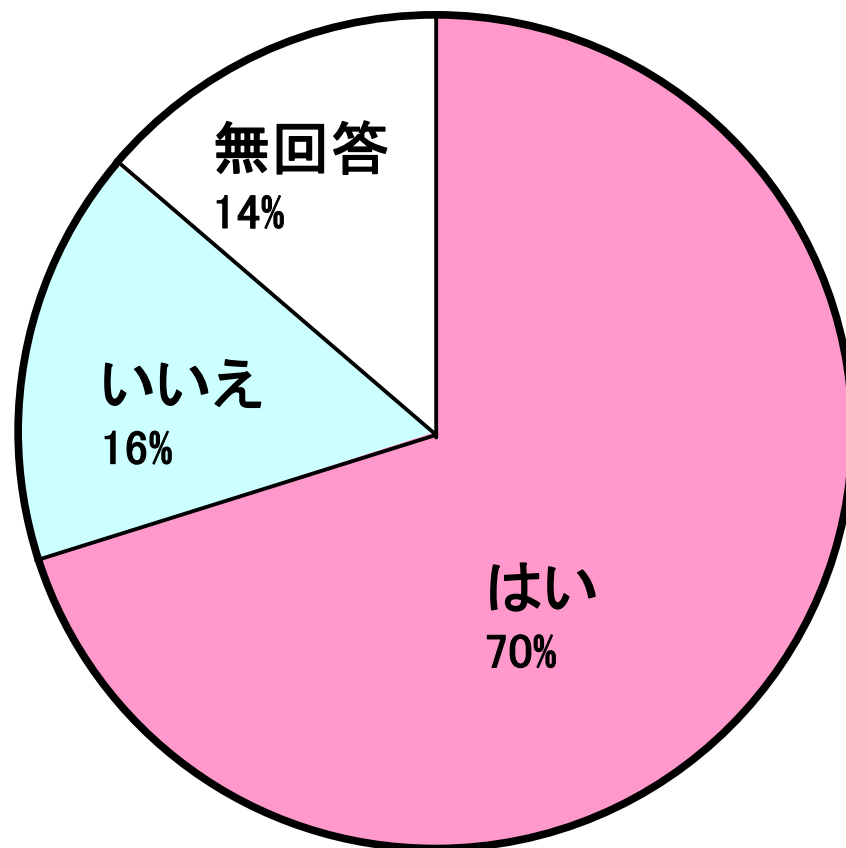
# 労働安全衛生関係法令、事業場において定めた 安全衛生に関する規程等を遵守する



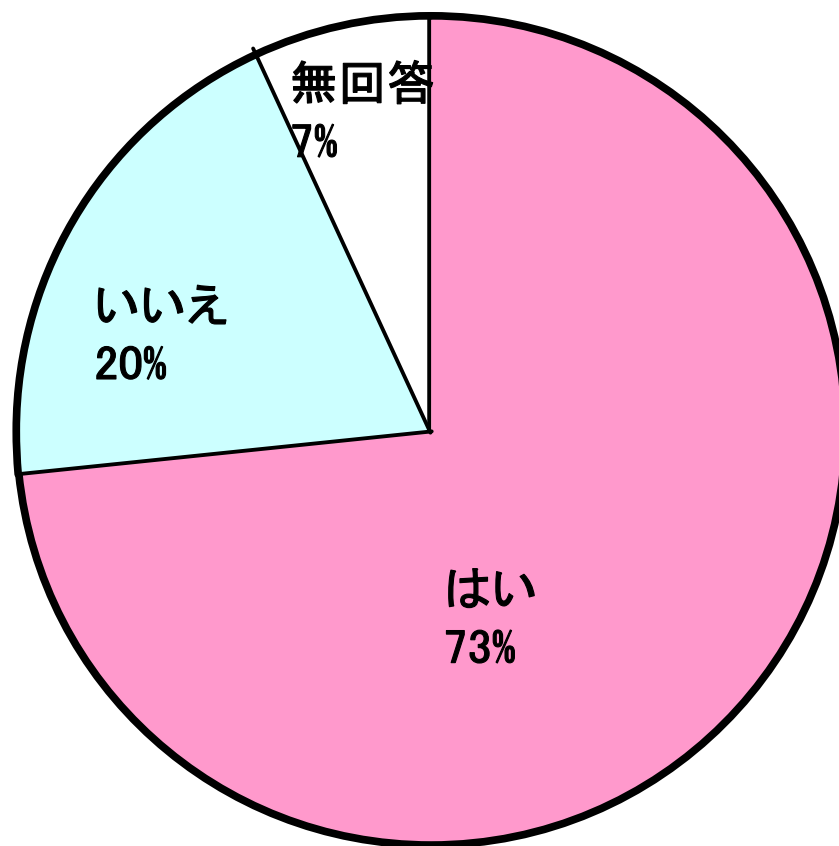
# 緊急事態が発生した場合に、労働災害を防止するための措置を定めて、適切に対応できるようにしている



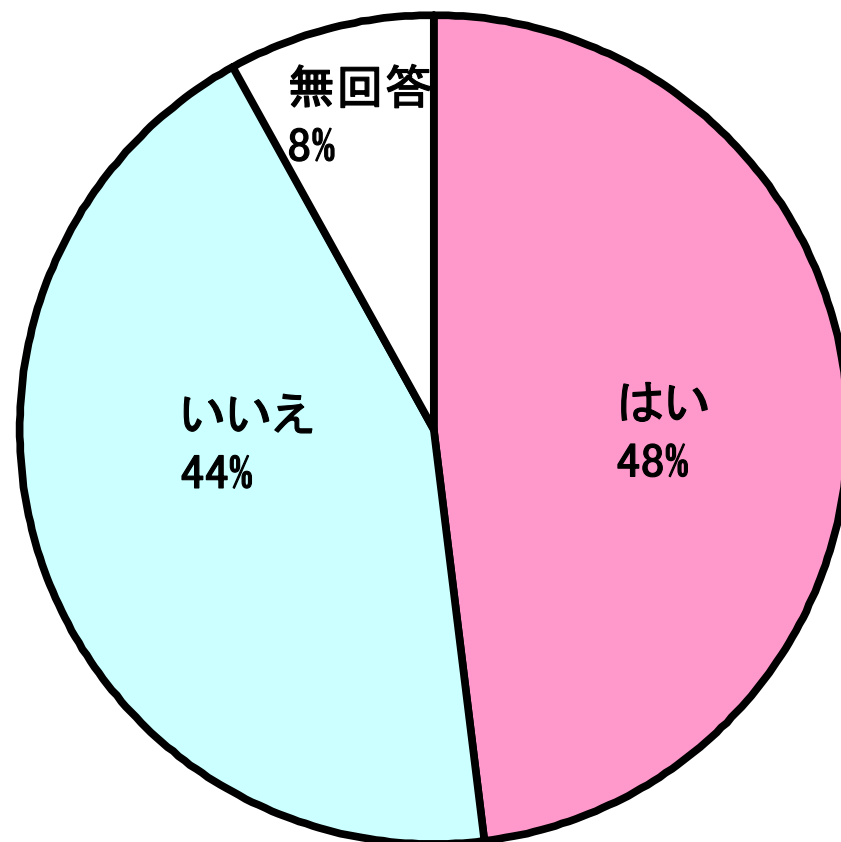
安全衛生委員会などを通じて、  
作業者の意見を反映する手順を定めている



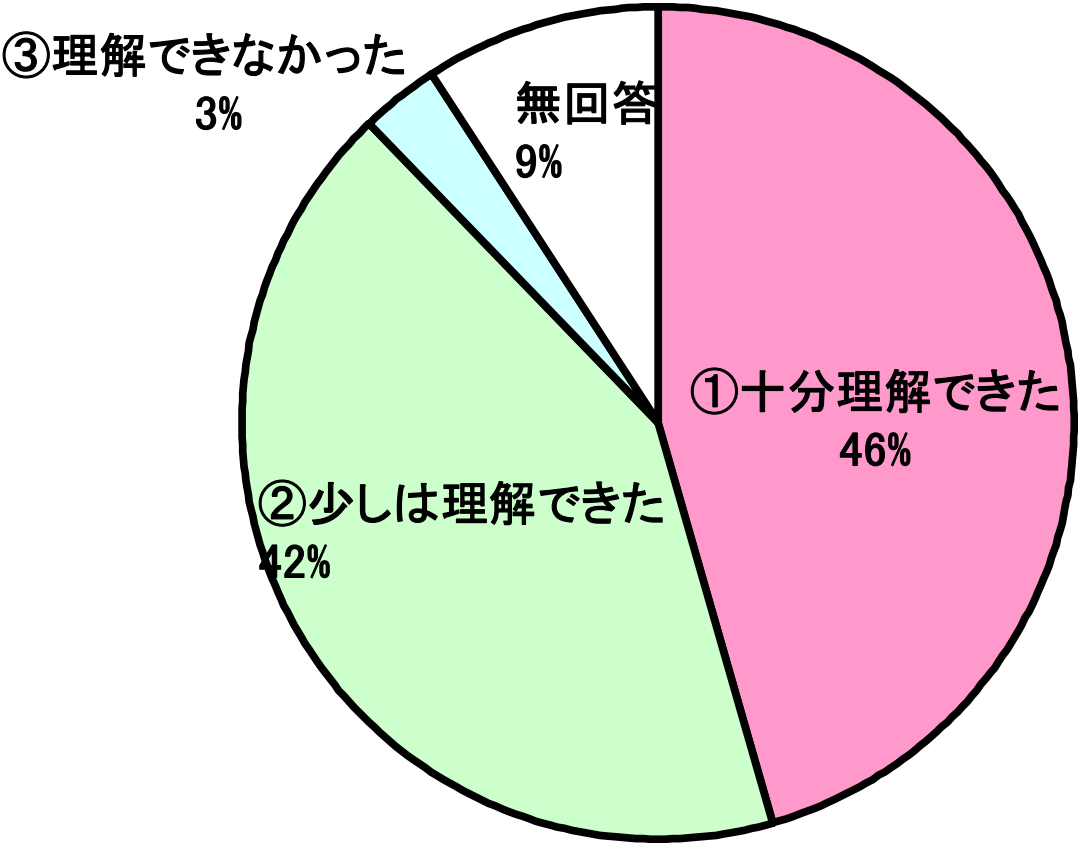
# 安全衛生活動の計画・運用に関する事項を文書で定める



# 安全衛生計画の実施及び運用の状況の定期的な監査ができる手順を作成している



# 大分産業保健推進センター主催の「労働安全衛生マネジメントシステム」 研修会を受講した事業所の理解度（事業所数33社）





## 研修会での要望事項(件数)



# 調査結果のまとめ

回答を得た事業所の多くが労働安全方針を立て、安全衛生改善計画にそって活動をすすめている。

緊急事態へ対処するため日常的な点検、改善がすすめられている。

安全衛生活動を遵守し、スパイラルに発展するため

- 手順書作成

- 文章化

- 定期的監査

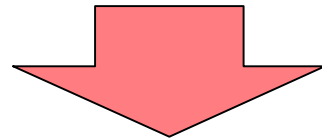
についての取り組みが段階的にすすめられている。

# 有機溶剤作業にかかるリスク評価 のためのモデル作成

1. 造船業のタンク内塗装作業
2. 車両などの塗装作業
3. 食品および食品用器具などの残留農薬  
分析作業

# 作業管理からの評価

- ①危害の大きさ：溶剤の飛来
- ②危害を受ける人数
- ③作業に内在する危険性：有機溶剤中毒予防規則  
：使用量（週当たり）
- ④作業頻度
- ⑤防護施策：保護具の使用の徹底



リスクの大きさの評価 = ① × ② × ③ × ④ × ⑤

# リスクアセスメント

リスク低減の実施に向けた**検討材料**

これらの作業のリスク低減対策を盛り込んだビデオ作成

大分産保センターの視聴覚用ビデオとして公開